

命を守る救急車購入支援を

京都岡本記念病院(久御山町佐山)は、老朽化した病院救急車1台を買い替えるため、市民から寄付を募るクラウドファンディング(CF)を3月19日まで行っている。約4千万円が必要で「地域の命を守る『断らない医療』のために支援を」と訴えている。

久御山・京都岡本記念病院 更新へCF



京都岡本記念病院が運用している救急車。1台欠けた状態だと、地域医療だけでなく、能登半島地震のような被災地への派遣も難しくなる、という(久御山町佐山・同院)

京都岡本記念病院は開院当初から「断らない医療」を理念に掲げてきた。山城地域では数少ない二次救急指定病院で、同地域はもちろん、京都市南部、乙訓地域、大阪府、奈良県を含む各地から急病者やけが人を24時間態勢で受け入れている。病院は救急車を3台運用している。心筋梗塞や脳梗塞などリスクの高い患者を安全に運ぶために必要で、他の病院や福祉施設から運ぶ「迎え搬送」、他院や自宅に移す「送り搬送」、医師が乗って現場に駆けつけるドクターカーに用いている。能登半島地震の被災地や京都アニメーション

1台4千万円 「断らない医療へ必要」

放火殺人事件の現場にも派遣してきた。3台のうち1台は走行距離が20万キロを越え、修理を重ねながら使ってきたが、不調が増え、廃車した。救急車は機材を含めると1台約4千万円かかる。救急医療について多くの人に知ってほしいと、クラウドファンディングで寄付を呼びかけることにした。

インターネットのクラウドファンディングサービス「READYFOR(レディーフォー)」で1月19日から募集したところ、2月1日には目標額の第一段階である1200万円を達成した。病院1階でも現金で受け付けており、合計で、市民から企業まで342人・団体から1479万円(同月13日時点)が集まっている。

期限は3月19日で、さらなる寄付を募っている。高木敏貴院長は「救急車は重症者に迅速かつ最善の処置をするために必要。地域の安心のために、ご支援をいただければ」と話す。

(八幡一男)